

## 男女共同参画に関する課題のまとめ

下線部は今後、更に強化すべき視点

### 1 意識啓発・教育

- 社会全体における男女の地位について「男性優遇」と感じる割合が高く、「男は仕事、女は家庭」といった意識が依然として残っていることから、
  - ・性別による固定的な役割分担意識を解消し、男女がともに個性や能力を十分に発揮できる社会づくりの重要性について、あらゆる機会を活用し、啓発する必要があります。
  - ・男女共同参画の理解を深めるための生涯学習活動の推進が必要です。
- 学校教育における男女共同参画は進んでいるものの、既に中学3年生には、性別による固定的な役割分担意識が見受けられることから、
  - ・幼児期から大人に至るまで、発達段階に応じた男女共同参画意識の継続的な啓発や教育が必要です。

### 2 女性の参画

- 政策方針決定過程への女性の参画の遅れが、国や市においても課題となっていることから、社会のあらゆる分野において男女が参画する機会の確保が図られるよう、行政、地域、企業などに積極的に働きかけるとともに、審議会等への女性の登用促進に向けた手法の検討や、男女共同参画を推進する人材や団体等の育成、さらには人材育成後に活躍する機会や場の提供が必要です。

### 3 ワーク・ライフ・バランス

- 結婚や出産等を機に退職するなど、仕事と家庭生活等との両立が難しい状況にあることから、
  - ・家庭における男女共同参画の促進、特に、男性の家庭参画促進が必要です。
  - ・市民ニーズに対応した多様な保育サービスの更なる充実、就業意欲のある女性の再就職支援や起業支援が必要です。
- 子育てと仕事の両立に加え、今後は、高齢化の進展に伴い、介護と仕事の両立が大きな課題になってくることから
  - ・市民や事業者に対してWLBの必要性を強く訴えるとともに、男性の家庭参画促進や、多様な働き方ができる雇用環境づくりを働きかけていく必要があります。

### 4 女性の人権

- DV被害の認知件数が増加傾向にあることや、若年層におけるデートDVが問題になっていること、DV被害者の6割が誰にも相談していないことから、
  - ・DVは犯罪をも含む重大な人権侵害であるという意識啓発や、若年層を対象としたデートDV防止啓発や男女共同参画の意識啓発が必要です。
  - ・DV被害者が一人で悩むことのないよう、DVの専門相談窓口の周知や相談体制の充実が必要です。

- 依然として、セクシャル・ハラスメントや性犯罪が見られることから、
  - ・セクシャル・ハラスメント等の女性に対する暴力対策の推進が必要です。

## 5 生涯にわたる健康づくり

- 若年層の人工妊娠中絶や HIV が増加傾向にあることや、パートナーの健康状態についての理解不足などが見られることから、
  - ・妊娠・出産などのライフステージや、身体的特性に応じた健康支援が必要です。
  - ・性や健康に関する正しい知識や情報の提供、学習・教育の推進が必要です。

## 6 推進体制

- 上記，男女共同参画施策を効率的・効果的に推進していくため、
  - ・施策の推進状況の点検と評価による管理
  - ・職員（市職員，教職員，保育士等）への意識啓発
  - ・男女共同参画推進団体等との連携による啓発
  - ・庁内・関係機関との連携による推進体制の強化 などがが必要です。